

各聯合會報告 羽崎、皆川、石井、木中四氏

議事

一、メーデー及び日本労働祭に就て

別項の通り書明書を發表すること

二、日本労働組合協議の新議長には、茲に日本海軍組合長を推挙すること

三、団体生命保険に就て

現に職場に於て加ふしてゐるのを調査考慮すること

四、在野軍人に對する件

新に全國的地方的に日兵軍部を討つて統制すること、執行委員會へ依

て、綱領に附する件

愛國的に又産業協力を徹した精神を以て速に新綱領を起草する事新議長に

六、旗及び徽章に附する件

旗及徽章は新綱領に相並したるものとし、一旗組合費の募り採取すること

書明書

メーデー示威運動は過去に於ては若干の使命ありしものと思ふが今日吾が
國內外の状況より見る所すにその意義は全く失はれしものと信ずる。メー
デーはアメリカに起つた革命的、階級的、反動的決議に依つて、或はたる世界革
命の爲め、時未論回匪罷業の豫備行動たるの行事として流行されたるのであ
る。吾々の産業協力をとらへる所以のものは今日の日本の内外の状況からい
て日本の労働者とし、心から日本の前途を憂ひ、産業人としてこの眞の使命
を懸すればこそである。産業協力は資本家は利権の追及のみを就る事本
く、労働者も亦更に分配のみに拘泥する事本欲、互に生産部向の一員たるを
自覚し相寄りて力を協せ共謀、共栄の道を模索するに在る。切な事な依
つて産業界の平和を招来し産業日本の発展を期する所にその目的がある。
斯くして産業は躍進し國は栄へ労働者の生活は潤ひ國民は治安の礎石は
成る、此の努力への方法とこそ眞實に労働者の幸福を願ふもの、報るべき事
段であり取らるべき、吾が日本労働組合協議は心から産業協力を主張する
が故にメーデー示威を行ふ事の価値を確信す、
茲にメーデーを排し産業協力を實現の爲日本労働祭として、更に労働一団左
右の産業祭を舉行するものである。

右書明す
昭和十年五月六日

日本労働組合協議會中央執行委員會